

島根県柿ノ木冷泉の放射能強度概査

山田 正春

三瓶火山活動に関係ありと考察される多くの冷泉があり、これらの冷泉が全般に放射能異常を有し、とくに柿ノ木冷泉の昇華物に顕著な異常ありとの情報に基づいて昭和32年10月、その概査を行なった。

調査の結果、柿ノ木には3カ所の冷泉湧出口があるが、いずれも無色、無臭の炭酸泉で、花崗斑岩の裂かに湧出している。冷泉付近には石灰質・褐鉄鉱質のシタ

ーがあり、最も厚い所では5~7mに達する。シター全般に放射能異常があり、Philips pocket battery monitorでMax 3.6 mr/h, 1,800~2,400 cpmを有する。分析結果ではウラン・トリウムを全く含有しない。この放射能異常はラドンとは考え難い。さらに今後の地球化学的研究によつて異常の原因を究明されることが望ましい。

長崎県西彼杵郡琴海村付近のマンガン鉱床に伴う放射能概査

稲井 信雄 古川 俊太郎

マンガン鉱床ならびにその周辺の堆積岩に伴う放射能調査の一環として長崎県西彼杵郡琴海村付近の旧村松鉱山他の放射能について概査を行なった。この地区のマンガン鉱床は結晶片岩に伴うマンガン鉱石として古くから知られていたが、こんにちまであまり活発な開発がされ

ていないのみならず、現在全く休止の状態にあり、その沿革、生産は明らかでない。今回これら休止鉱山の旧坑または露頭付近に対し、放射能測定を行ないながらその地質鉱床を概査したが、放射能についてはとくに異常を認めることができなかった。